

令和2年度 第1回 城南図書館・児童館 連絡協議会 (城南児童館運営審議会) 議事要録

1 開催日時及び場所

令和2年9月11日(金)14時から

場所：熊本市立城南図書館 多目的室

2 出席委員 13名

尚綱大学短期大学部 幼児教育学科 准教授

熊本市立隈庄小学校 校長

熊本市南区文化協会 会長

隈庄校区青少年健全育成協議会 会長

舞原自治会 会長

舞原子ども会 会長

隈庄校区主任児童委員・民生委員

親育ち支援の会 ポトフ

子育て支援クラブ「ピカピカ」 会長

城南まちづくりセンター 城南公民館 館長

熊本市健康福祉局 子ども未来部 子ども支援課

熊本市教育委員会事務局 教育総務部 熊本市立図書館

城南図書館管理運営共同企業体 代表

3 議事内容

1) 令和2年度事業計画及び近況報告について

2) 利用人数等の報告

4 意見交換内容

「城南図書館・城南児童館へ意見等」

■質疑応答

○委員 A

各所、コロナ対応に追われているかと思う。本学においても遠隔授業、面接授業など行い、今の1年生は卒業式も入学式も出来ていない状況。私達も初めてのことなので、学生と学習環境を整えるのにどうしたらよいか苦慮している。もちろん、小学校、中学校でも同様だったと思う。来館者数の数字も見せていただいたが、開館している以上は多くの方に利用していただきたいという思いもあり、増えたことがいいことなのか難しいところである。

3月4月ピークの頃よりも俄然、感染者数が増えている状況下、そこをどう判断していくのか、色々な所でジレンマかと思う。ただ、アンケートに「感染防止対策をしっかりとって楽しく遊べた」という声があったのはとてもいいことであると思うし、やはり様々な状況下においてもこのような場が必要という方も一定数いらっしゃると思うので、その中で苦慮しながらも対応されてこられた印象を受けた。また、どこでもやっているが web 情報配信も必要かと思う。寺子屋も、学習というのは自力でやらないと中々厳しい状況で、自分で規律正しくできる子できない子という場合があるので、感染の可能性もあるが助けられた子供達もいるのではないか。休みにどこにも行けない子供達もいたので、場としては機能していたのではないかと思う。図書館は本を借りて家で読むことが可能。他にも塗り絵など、家でできることを楽しめる工夫ができればいいかと思う。

○委員 B

小学校でも行事等ができない期間 4～6年生はタブレットを利用し、zoom で授業や健康観察等していた。先日、子どもの読書活動に関する調査があり、「学校から帰ったあと、休みの日に本を読むことがありますか」という設問に 1～4年は「よくやる」「時々やる」が多く、5～6年は極端に少ない。6年生に至っては「ない」が 70%となった。夏休み中に読書を「しなかった」と答えた 5,6年が 30%と、タブレットの影響もあったと考えられる。(授業などで使用が増え、タブレットから情報収集するようになった)

今後、学校としての在り方をもう一度考え、読書活動を推進するための参考にしたいと思っている。

○委員 C

図書館・児童館は人が中心となる場でコロナ渦の新しい生活様式を見出すきっかけとなる。今だからできる SNS などの動画配信を行っていて安心した。コロナの影響で家庭に戻った子供達の過ごし方、子育ての仕方など児童館で行っていることをもっと配信したらどうかと思う。『STAY HOME』期間中、私も図書館はいつ開くのかという声を聞いた。心の拠り所は図書館・児童館じゃないかと思う。長時間、長期間家庭で過ごす家族のために子どもと上手に接する場面作りができるようなプログラム・動画配信など風穴を開けることをしていただけたらと思う。

○委員D

長期間、学校が休みの時は児童育成クラブに手伝いに行っている。学校が休校の時も子供達を預からなければいけない、3密はどうしても避けられない、という中で、育成クラブでは子供たちが遊んだブロック類は室内にテントを立て、テント内で消毒を行っていた。お迎えもインターホンで呼び出し、外部から中に入れない等あらゆる対策で対応していた。

○委員E

地元にある図書館・児童館がどうなるか心配していたが、徐々に利用者が増えているということで安心した。

○委員F 特になし。

○委員G

7月から再開し、当面はサービスが限定されるということだが、利用状況は回復しつつあるとのことで今日まで多くの苦労があったかと思われる。その辺も話していただければ助かる。そして今後の改善点や取組等についてもお聞きしたい。アンケートも制限の中で実施されたと思うが、感謝の気持ちが多く出ているという結果が報告されており、感謝している。

○委員H

コロナ渦で様々な対策を考慮し大変だったかと思う。地域に素晴らしい施設ができ、利用者が増えればと思っている。私達も地域にどんどん発信していきたいと思っているので協力をよろしく願いたい。

○委員I

私達もお子さんがあるご家庭への訪問をずっとやっているが、コロナ渦で直接訪問ができず、4月からは気になるご家庭は電話など色々行っているところ。お母さんの仕事の制限や子供さんが家にいることで兄弟喧嘩が絶えない等、常にイライラしているお母さんが多い。南区では、支援センターが1時間に1~2組の利用時間制限、サークル中止等で、時間が合わない、行き場もないとの声が多いので、制限がさほど厳しくない城南児童館をお勧めしている。豊田校区は小学生が1人で行けない距離で利用が少ないので、是非たくさんの子が中学、高校でも利用できるような環境を作っていただきたい。

○委員J

私自身3人子どもがいて、1番上の年中の子が2ヶ月の時から4,5年利用している。子育て支援クラブにも通っており、本当に心の拠り所になっている。ここで出会った人達に支えられ、一緒に子育てをしていく仲間ができた。クラブ活動を9月10日から再始動していると

ころだが、今年の会員さんの 8 割が初めてのお子さんで、私が初めてここに来た頃を思い出している。これからも悩みや喜びを共有するお母さん同士の仲間づくりや子供同士との関りを目指していきたいと思うので、連携をよろしく願いしたい。

○委員 K 特になし。

○企業体代表

様々なお意見ありがとうございます。

総括的にお答えをさせていただくと、3,4月閉館は確かに何をしていたか分からない状況で担当課の方々、本館の指示を仰ぎながら進めてきた。

動画配信は職員からのアイデアで、レベル問わず各施設で配信した。今となっては当たり前の手法で、緊急事態宣言期間は仕方なかったが、図書館・児童館の動画配信が良い手法とは実はあまり思っていない。今は新しい生活様式を守りながら人と人とのふれあいを再開しないといけない時期だと思っている。動画配信は安全性の高さはあるが、全国的な配信数からも苦勞の割に喜んで視聴いただける数としては少なく、中々難しいと思う。図書館は早くに開館となりやっと今、このような会議が開催できるようになったのも、世間がコロナ渦における活動を認識し始めたからだと思う。次のステップとして秋からは感染予防を徹底しながら、公共施設だからこそ人とのふれあいを戻すようにしなければならないと考えている。今年度も縮小しながらも人数制限などの感染予防対策を含めた秋祭りを計画している。一方で zoom による見学会等、より良い手段を選択し、公共施設として何ができるのか、本館、担当課の方々とも協議しながら少しずつ元の形に戻していけたらと思い、綿密な計画、会議を重ねていきたいと思っている。

以上